

3 経営分析

(1) 安全性の分析

安全性分析とは、必要とする資本とその充足の度合いを示すもので、資本構成の適否、支払能力の有無、資本構成の安定度を見ます。

経営、財務の安全性、健全性を見るには、短期的な資金の流動性を見る2つの指標と、長期的な資金調達の健全性を見る3つの指標、損益計算書から両面を見るものとに分かれます。安全性の分析では、財務の健全性をバランス（資産・負債・純資産の均衡度合）と支払い能力（流動性）の両方で検討します。

① 短期の支払能力

$$\blacksquare \text{ 流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

流動負債（1年以内に返済すべき債務）の償還財源は、流動資産（1年以内に現金化される資産）です。

円滑な資金循環のために一般には、200%以上が望ましいといえますが、農業の棚卸資産（農産物）は換金性が高いので、一般的には130%以上あれば健全の範囲といえます。

※流動比率の場合、流動資産の中身が本当にお金に換わるものなのかどうかという確認が必要です。

$$\blacksquare \text{ 当座比率} = \frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

流動負債の直接の支払い原資は現金・預金等の当座資産です。棚卸資産は販売されて当座資産となってから支払原資となります。適正な比率は100%以上（流動比率の1/2）とされていますが、流動比率と同様な理由で農業では80%以上あれば良いとされています。

② 財務構造の適否

$$\blacksquare \text{ 固定比率} = \frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$$

固定資産への投下資本は長期にわたって経営にとどまるものですから、原則的には自己資本のように返済義務のないもので調達されるのが望ましいといえます。

固定比率は、固定資産を上回る自己資本があるかどうか、固定資産がどの程度自

己資本で賄われているかどうかを見るための比率で 100%以下が望ましいといえます。

$$\blacksquare \text{ 固定長期適合率} = \frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{長期借入金}} \times 100$$

固定資産は自己資本で賄うのが望ましいですが、実際には自己資本だけで高額な固定資産を購入する事は現実的ではないので、固定資産の使用期間に合わせた長期借入金を利用する事となります。固定長期適合率は固定資産が、自己資本と長期借入金で賄われているかを見るための比率で、100%を下回らなければ危険であるといえます。80%、できれば70%以下が望ましいでしょう。

③ 資本の安定性

$$\blacksquare \text{ 自己資本比率} = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

資本金（元入金）以外の剰余金等も加えた自己資本（BSの純資産の部）が負債・資本合計（総資本）に占める比率を見るためのもので、自己資本は償還の必要がなく、金利負担もかからない資金のため、比率が高いほど健全経営といえます。負債は自己資本を超えないという原則からは50%以上が望ましく、施設型の拡大経営でも30%を下限としたいものです。

$$\blacksquare \text{ 売上高支払利息率} = \frac{\text{支払利息}}{\text{売上高}} \times 100$$

借入金の利子負担の限度を知る指標として重要です。

通常借入金の利息以下が望ましく、2%以内なら優秀経営といえます。逆に借入金の利息を越えると経営の改善策が必要となり、10%を越えると改善策が厳しさを増してきます。

(2) 収益性の分析

① 法人の収益性

$$\blacksquare \text{ 総資本経常利益率} = \frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} \times 100$$

総資本（自己資本＋他人資本）に対する経常利益の比率を示したもので、法人として投入した資本に対していくらの成果（利回り）が得られたかを示すものです。

経常利益が少ないか、総資本が過大であると比率は低くなります。比率が低い場合は、販路拡大や経費削減をすることで経常利益を増やすか、不良資産等を処分して総資本を圧縮して資本効率を高めるなどの資産内容の見直しが必要です。

$$\blacksquare \text{ 売上高総利益率} = \frac{\text{売上総利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

売上高に対する売上総利益（粗利益）の比率を示したものです。売上総利益は、すべての利益の源泉となるものなので、この比率は高いほど良好であるといえます。この比率が低い場合は、販売価格や製造原価について見直す必要があります。

$$\blacksquare \text{ 売上高経常利益率} = \frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

売上高に対する会社の経常的な活動からの利益（経常利益）の比率を示したものです。経常利益は、法人の通常の事業活動の成果であり、全体の収益力を意味します。したがってこの比率は、財務活動なども含めた通常の企業活動の中で、どれだけ効率の良い経営を行っているかを示しています。この比率が低い場合は、法人の存亡に係る可能性があるため、原因分析と対応を検討する必要があります。

(3) 生産性の分析

① 総資本の運用効率

$$\blacksquare \text{ 総資本回転率} = \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$$

総資本回転率は、投資した総資本がどれだけ有効に活用されたかを示す指標です。この比率が高いほど経営活動が活発で、総資本が効率よく利用されているといえます。

(4) 成長性の分析

① 法人の成長性

$$\blacksquare \text{ 売上高伸び率} = \frac{(\text{売上高} - \text{前期売上高})}{\text{前期売上高}} \times 100$$

売上高が前期と比較してどれくらい増減したかを示す指標です。数値が0より大きい場合は「増収」、小さい場合は「減収」を意味します。過去5年間程度の数値の変化に注目し、その推移を判断することが重要です。

$$\blacksquare \text{ 自己資本増加率} = \frac{(\text{自己資本比率} - \text{前期自己資本比率})}{\text{前期自己資本比率}} \times 100$$

法人が返済する必要のない資本（自己資本）が前年度と比べてどれくらい増えたかを示す指標です。自己資本は返済する必要がなく、法人が自由に使うことが出来るので、多ければ多いほど経営が安定しているといえます。